



さいかい

2023.2

Vol.113

Winter

Contents

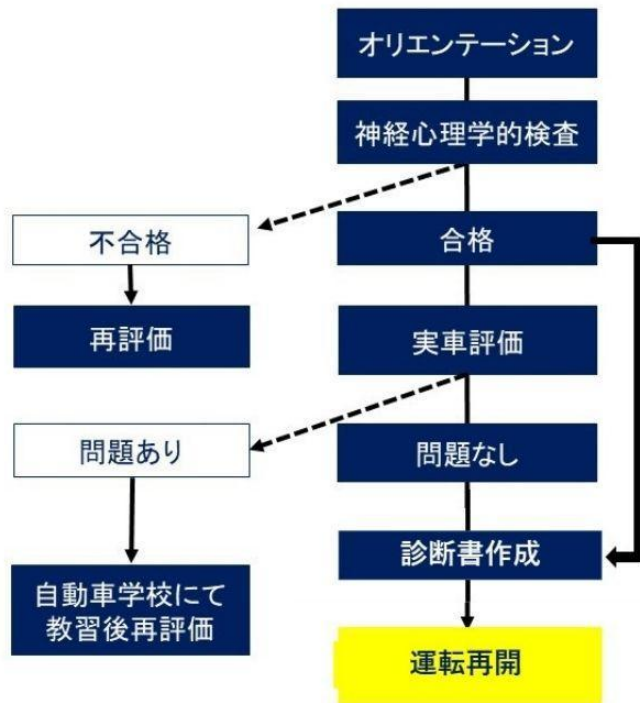
- わたしたちのところこんなことやっています
- 第29回長崎県作業療法学会
- 県士会事業取り組み
- 第一回県北地区福祉用具研修会
- 達人Tell me
- 県内の研修会の紹介
- パパさんOT

～脳卒中患者への運転再開支援～

長崎労災病院 尾坂愛菜

当院では、脳卒中発症後に運転再開を希望される患者様へ、急性期からの運転再開支援を行っています。当院の支援方法についてご紹介させていただきます。

運転再開支援の流れ



運転再開支援の希望がある方は、医師の指示のもと介入を行います。オリエンテーション後、退院までに診断書作成に必要な評価【神経心理学的検査やシミュレータ、実車評価など】を行います。他職種カンファレンスで、報告や情報共有を行います。

実施件数

SDSA 入院中89件 外来55件 (2021-2022年)

実車評価 46件 (2020-2022年)

学会発表

これまでに、運転再開支援について学会で5件報告しています。内容は、当院の運転再開支援の方法や、神経心理学的検査に関する研究報告です。他施設や県外のOTと意見交換をすることで、システムの見直すきっかけや、新しい見解を知ることができ刺激を受けます。

神経心理学的検査

- MMSE
- TMT-J
- コース立方体組み合わせテスト
- J-SDSA



上記4つの検査を実施します。SDSAの再評価は退院後、外来で行います。

ドライブシミュレータ



模擬運転を通してアクセルや、ブレーキ操作の確認、視覚障害や高次脳機能障害の評価を、対象者に応じて実施します。

自動車学校で実車評価



自動車学校と連携し、実車評価を行います。対象者は軽度麻痺の残存の方や高次脳機能障害が境界レベルの方です。

今後の課題



近年、全国的に注目されている運転再開支援ですが、特に長崎県は公共交通機関の不足や坂の町、離島など車が必要な地域が多いです。県北地域では、運転再開の支援体制が確立できていないのが現状です。まず運転再開支援の評価ができる施設を増やし、再開できなかった方へのサポート体制の構築と充実を含め情報交換を行い、盛り上げていきたいです！

第29回

長崎県作業療法学会

『不易流行』

～ つなぐ想いと明日への挑戦～

会期

LIVE配信:2023年2月19日(日)

オンデマンド配信:2023年2月20日(月)

～3月19日(日)

学会長

医療法人和仁会
和仁会病院

大坪 建

事務局

〒850-0854 長崎市銀屋町4-11

一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院

TEL:095-818-2002

E-mail:info-gakkai29@Nagasaki-ot.com

生田 敏明

日程表

LIVE配信 2月19日 (土)

時間	会場	会場A	会場B
9:00～		開会式	
9:10～10:10		一般演題 セッション1 (5演題)	一般演題 セッション2 (5演題)
10:20～11:50		特別講演Ⅰ 講師:岩根 達郎	
12:00～13:00		一般演題 セッション3 (5演題)	一般演題 セッション4 (5演題)
13:10～14:10		一般演題 セッション5 (5演題)	一般演題 セッション6 (6演題)
14:20～15:20		学会企画セミナーⅠ 講師:前田 大輝	
15:30～17:00		特別講演Ⅱ 講師:大庭 潤平	
17:00～17:10		優秀演題発表・表彰	
17:10～		閉会式	

◎LIVE配信後もオンデマンド
配信でご覧になれます。

LIVE配信・オンデマンド配信

特別講演Ⅰ	講師:岩根 達郎 (京都府立洛南病院リハビリテーションセンター) 『生きづらさのある人の理解と関わり』
特別講演Ⅱ	講師:大庭 潤平 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部大学院研究科教授) 『質の高い作業療法とは何か! -これから作業療法士に求められること-』
学会企画 セミナーⅠ	講師:前田 大輝 (医療法人 見松会 あきやま病院 地域連携プロジェクトマネージャー) 『今日からできる!人と人を紡ぐ意図したコミュニケーション ～コロナに負けるな!目指せ変対OT～』

不易
流行



オンデマンド配信 2月20日(月)～3月19日(日)

教育講演Ⅰ	講師:鈴木 孝治 (藍野大学医療保健学部作業療法学科教授) 『 記憶障害の作業療法 ～認知心理学の立場から～ 』
教育講演Ⅱ	講師:田平 隆行 (鹿児島大学医学部保健学科作業療法専攻教授) 『 地域在住認知症高齢者の生活行為に資するリハビリテーション 』
学会企画セミナーⅡ	講師:元廣 惇 (株式会社Canvas代表取締役/国立大学法人島根大学 地域包括ケア教育研究センター 客員研究員) 『 作業療法の価値を活かした新たなビジネスを創る ～産・官・学・金連携による「地域共創型」ベンチャー～ 』
学会企画セミナーⅢ	講師:川添 奈菜 (医療的ケア児、病児、障がい児ママサークルCOCONOWA 代表) 『 医療的ケア児の母になって ～自助サークルの立ち上げと実践～ 』

講師紹介



◀ 特別講演Ⅰ

岩根 達郎

いわね たつろう



◀ 特別講演Ⅱ

大庭 潤平

おおば じゅんぺい



◀ 教育講演Ⅰ

鈴木 孝治

すずき たかじ



◀ 教育講演Ⅱ

田平 隆行

たびら たかゆき



◀ 学会企画セミナーⅠ

前田 大輝

まえだ たいき



◀ 学会企画セミナーⅡ

元廣 惇

もとひろ あつし



◀ 学会企画セミナーⅢ

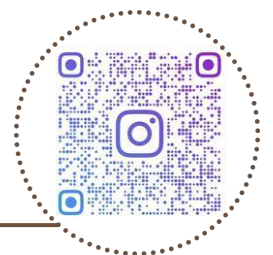
川添 奈菜

かわそえ なな



◀ 学会HP

学会Instagram ▶



特別企画

『長崎の作業療法って、なんばしよと？～不易流行な活動を紹介～』

県内で頑張っている作業療法士の活動を動画で紹介します！

学会に関してご不明な点は事務局までお問い合わせ下さい。

事業局の活動紹介



担当理事: 鎌田秀一、原田洋平、坪田優一

【事業局について】

事業局の担当理事は、令和4年度から私達3名が担当しています。

事業局は、地域包括ケア対策部と他団体対策部で構成され、各班と連携を図りながら、人材育成や行政や地域への啓蒙活動、他団体との連携などの活動を行っています。

今回は地域包括ケア推進班について紹介させていただきます。

事業局

地域包括ケア対策部

- ・地域包括ケア推進班
- ・地域ケア会議班
- ・介護予防班
- ・福祉用具班

他団体対策部

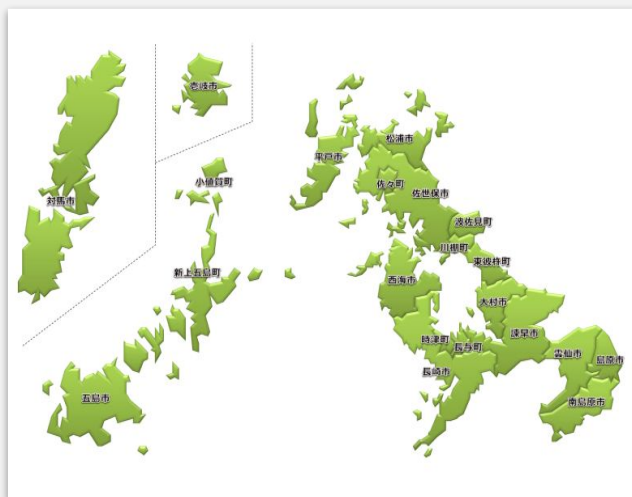
- ・神経心理学的検査研修会班
- ・4団体合同班
- ・災害リハ班
- ・歯科保健医療事業班
- ・子どもの地域生活支援班

【地域包括ケア推進班について】

地域包括ケア推進班 班長 坪田優一(愛野ありあけ病院)

日本作業療法士協会では、作業療法士が全国約1,700すべての市町村の地域支援事業へ参画することを目標として、協会と士会連携を一体的かつ積極的に進めています。ブロック体制の活性化をするために、九州ブロックでの研修会や情報交換会を開催し、士会活動の支援体制を強化しています。

長崎県士会では、21市町に市町との窓口として、推進員を配置しています。これまでの取り組みとしては、研修会、各地区の地域支援事業の実施状況の把握、OTの参画状況の調査、コロナ禍での市町の動きと参画状況の調査など様々な活動を実施してきました。



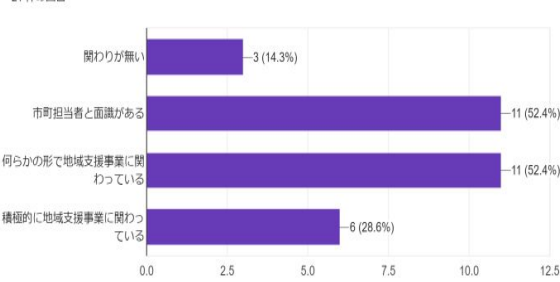
OT協会が掲げる「全国1,700市町村の地域支援事業にOTが参画する」に向けて、推進班を効果的に活用するためには！？

今年度の取り組みとして..

奈良モデルを基に推進員向けアンケートを実施！
課題が明確になり、次の取り組みへ繋がりました。

長崎県の状況を整理し、課題と強みを明確化し、現状の見える化を図るため、地域支援事業シートを作成しました。

3. 担当地域との連携状況を教えてください。(主観が入っても差し支えありません)
21件の回答



推進班としての活動

- ・地域包括ケア推進員向けアンケート
- ・地域包括ケア推進班会議(推進員、地区理事)
- ・事業局研修会(R5年1月, 3月)
- ・地域包括ケア推進員の見直し
- ・地域包括ケア推進員マニュアル作成
- ・連絡体制の整備(グループLINEの作成)

OT協会との連携

- ・地域支援事業への参画推進のため WEB研修会「長崎県内の担当 OT配置の取り組みと課題について」
- ・地域包括ケア対策部村木部長が報告
- ・地域支援事業に資する人材育成研修会
- ・地域包括ケアシステム推進委員会九州地区会議

【R4年11月地域包括ケア推進班会議】

各地域局の担当理事にも参加していただき、意見交換を行いました。負担が大きさや行政との連携を推進員単独の働きかけだけでなく、地区理事と連携を強化を図り、また近隣市町の推進員と情報交換ができるような体制に整備をすすめています。

【長崎県作業療法士会事業局研修会】

テーマ『長崎の OT よ、地域づくりにふみ出そう!』～わが町のファーストペンギンにあなたもなれる!～を開催いたしました。参加者46名で、若手OTの参加もありました。今回の研修では、長崎県長寿社会課の前山先生、日本OT協会地域包括ケアシステム委員会に研修会講師を依頼しました。もっと聞きたかったという声が多くあり、充実した講演となりました。

グループワークは、各圏域ごとに分かれて行いました。現状と地域に出るためにというテーマでは、様々な意見が出ていて、時間が足らなかったとの意見も聞かれました。

研修会終了後のアンケートからは、72.4%の方が地域活動に参加し、地域ケア会議に参加をしています。住民主体の通い場への支援も61%と地域活動に参加していることがわかりました。その一方で、興味はあるが参加ができていない方も多くいることがわかりました。

令和4年度 長崎県作業療法士会 事業局研修会

講演①『長崎県における地域包括ケアシステム構築に向けた現状と課題』
長崎県福祉保健部長寿社会課 地域包括ケア推進班 前山 隆史 先生

講演②『OT協会の変革、地域支援事業への参画に向けた方針と動向』
日本作業療法士協会 地域包括ケア推進委員会委員長 辰巳 一彦 先生

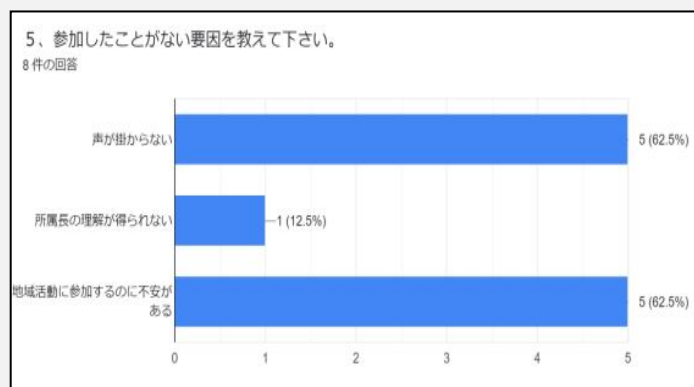
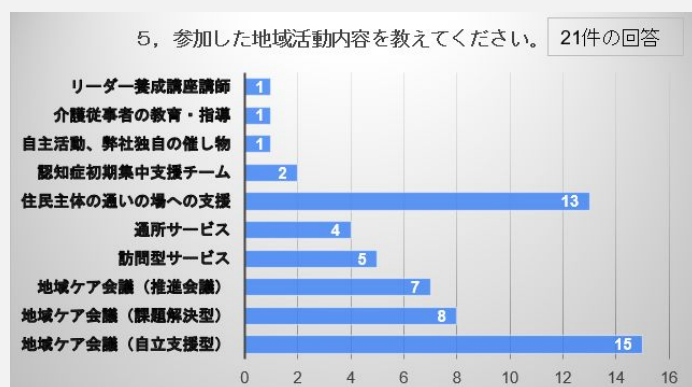
講演③『福岡県内での市町村事業（介護予防、地域ケア会議等）の取り組みについて』
日本作業療法士協会 地域包括ケア推進委員会委員長 粕井 剛士 先生

令和5年
1/26(木)
19:00～21:00

会場：オンライン(Zoom)
参加費：無料 生涯教育基礎ポイント付与あり
締め切り：令和5年1月15日(日)まで

お問い合わせ
長崎県作業療法士会 事業局 坪田優一 鏑田秀一
E-mail: jicyokkyoku@nagasaki.com

長崎のOTよ、地域づくりにふみ出そう!
わが町のファーストペンギンにあなたもなれる!?



【研修会参加者の声】

長崎県の地域における現状と課題について理解できました。また、作業療法士にとって、現在が将来を左右する大事な分岐点であると知ることができました。今後は病院・施設以外にも職域を広げることを視野に入れながら、日常業務や地域支援に携わっていきたいと思います。

自分の中でもややもやしていた点がすっきりしました。大変引き出しが広がる研修会でした。

経験年数が長い方の意見なども聞けて地域活動の参加の意欲が高まりました。

【おわりに】

今回の研修会を通して、様々な意見を頂きました。地域をテーマとした研修会、若手育成、制度の知識を得るための研修会等の要望がありましたので、今後の活動の参考にしていきたいと思います。また、実際の地域ケア会議や介護予防事業の参加や見学を希望される声がありました。地域ケア会議班と連携し、多くの会員が地域に出るように取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

【資料】

地域包括ケアシステム参画の手引き



総合事業実践事例集



奈良県作業療法士会が平成 29年度作業療法推進活動モデル事業助成金(日本作業療法士協会)で作成した「自立支援型 地域ケア会議 助言者育成DVD」が奈良県作業療法士会ホームページで公開されています。
(<https://naraotjp.wixsite.com/houkatsu>)

事業部福祉用具班の活動報告

佐々町多世代包括支援センター 久保宏記

【自助具作りと私】

私は、作業療法士になって40年。就職当時は自助具や福祉用具が少なく、手作りすることが当たり前の時代でした。頸髄損傷者を担当し食事用スプーンホルダー（図1）を作ることがすごく苦手でした。工業用のマシンやカシメを使いこなすことに悪戦苦闘し、何度も失敗を繰り返し見た目も悪いものばかり。患者さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、その人に合わせて一生懸命に作ることは、患者さんに伝わり、大事に使ってくれるだけでなく、信頼関係作りになりました。退院し、そのスプーンホルダーをボロボロになるまで使い続け、わざわざ遠くから修理してもらいに外来まで来られることもあります。今では、福祉用具や自助具は、カタログで探せば何でも買える時代になりました。それでも患者さんが経済的に厳しい方もおられ、その人に合ったものが作れないかと常に考える習慣は大事にしています。

物作りは自分一人で考え、患者さんに提供するだけでなく、自分の考えや技術を共有し一緒に学び合うようにしてほしいと思っています。



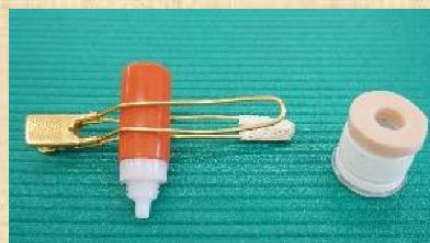
図1 スプーンホルダー

【県北地区福祉用具研修会の報告】

令和4年11月5日に県北地区福祉用具研修会を開催致しました。若手OTが会場に集まって自助具を一緒に作り、悩みや問題点などを共有し、親睦を図っていく企画を考えましたが、コロナ感染拡大でオンライン研修会に変更しました。県北地区の5つの病院OTから手作り自助具の発表を行って頂きました。参加者の経験年数は、1～5年8名、6～10年1名、10年以上が16名、自助具を作製したことがない方が4名。作った作品としては、万能カフやリチャーなどでした。

＼点眼器／

リウマチなどの疾患で手指に筋力がない方に利用するために作製材料はペットボトルのキャップ・スポンジ・クリップと患者さんから好評と高齢者で力が入りにくい方も利用できる



スポンジが付き押し当てても安心

＼トイレトペーパーホルダー／



「ホルダーの位置を変更して取りやすくしてほしい」といって依頼で製作された用具

ポイント
ペーパーホルダーは既存のトイレトペーパーホルダーを使用し、手すりとして使うリストラクチャーを考えた。ロックと滑り止め、重量と安定感を持たせた。



『参加された方々から一言』

- A氏 「市販の福祉用具を使用することが多く、改めてオーダーメイドの自助具作製の大切さを認識する機会となった。対象者の生活行為が向上するよう福祉用具の知識を深めていきたい。」
 - B氏 「本人の選択を尊重し、気持ちに寄り添った支援を再考する機会になった。」
 - C氏 「今回のような地域や実生活での福祉用具や自助具の使用場面とその工夫を拝見する経験を、次回もぜひしてほしい。また今後は、介入点や工夫点について自らアイデアを出し検討していきたい。」
 - D氏 「大変参考になる事例が多く、まだまだやらなければならない事や工夫できる事がたくさんあるのではないかと感じた。」
 - E氏 「本人ができる範囲の中で、能力を生かして用具を活用していく評価や道具のイメージ化に苦労することがある。」
 - F氏 「自助具の患者さんへの請求方法、業務内に作製しているのか、自己研鑽でしているのか施設ごとの規定を知りたい。」
- ・たくさんの感想を頂き、開催してよかった！

【生活行為工夫情報事業について】

日本作業療法士協会では、全国に生活行為工夫情報事業を展開しています。長崎県も参加しており、県士会のOT会員が工夫した事例をたくさん掲載しています。また自分の作品も掲載できますので、ぜひ投稿してほしいと思います。

(相談コーナーもあります)

閲覧はインターネットで「福祉用具相談支援システム」と検索して「初めてのご利用の方はコチラ」から入って下さい。あなたの知識が増え、作る楽しみも増えるチャンスです。

達人
tell me
心うごかせ!

Series9

より充足した職業人生の ためへの取り組みにむけて Part2

前回からの達人!



長崎リハビリテーション病院 淡野義長

前回の達人tell meでは「作業療法に必要と思われる要素」についてでした。是非、前回の達人tell meを読み返して今回の作業療法士の「就労形態とキャリア」をお読みください（広報局より）。

就労形態とキャリア？

作業療法士の就労形態は、一部の経営者を除くとほぼサラリーマンだと思います。多くは医療機関に就職し、患者対応からはじまり、部門や委員会等での役割や、イベントや行事、プロジェクトなどの役割を経て、組織内での役割を上げていく場合が多いでしょう。並行してOT協会の生涯学習でのランクアップや、周辺学会、団体等による研修や認定等によって基本の専門職としての知識や技術の研鑽を続けていくことになるでしょう。まとまった学習の機会となると高等教育で修士や博士など学位の取得を目標としている場合もあるでしょう。このような組織内部での役割や実績と専門職としての信頼性の大きく2つのバランスが内部での評価となり、相応の役職や管理職となるのが今の一般的なのところでしょう。卒業者が少ない昭和の時代ではまだ階層的に順番がみえていたところがありますが、多数の同期が横並びになる昨今では、職場における先々のポジションがみえない時代になっていることでしょう。作業療法士の業界は女性が多い業界でもあるので、30代ではいわゆるキャリアアップと子育てとの両立が話題になることでしょう。前回のライフイベント経験の有効性を考えると、その時々優先事項を大事に経験することがのちの自分のキャリアに良い影響を及ぼすような社会であってほしいと思っています。

実際の場面で見ると例えば病院組織を考えると、リハビリテーション部門の科長と言われる立場くらいが現実的で、そのポストも1席くらいでしょう。同等のポストがあっても数えるくらいでしょう。となると旧来の階段型出世には早いうちに限界が来ることは見えています。ポストあつての役付けの考え方は破綻しているでしょう。このように各組織における構造的な課題は一部の管理職以外のサラリーマンにはどうしようもないことではありますので、直接的には手を出せない課題です。



では、イチ作業療法士としてはどのようにしていけばいいのでしょうか？ 私は自分の商品価値を上げておくことしかできないと思っています。作業療法は商品ではない！と怒られそうですが、商人の環境で育った私のカンカクという商品価値は、単純に良いものということではありません。ニーズへの反映状況、機能、価格、経費、デザイン、所有感、満足度、理解度などをバランスよく満たしているものが商品価値が高いと思っています。作業療法は多くの場合、社会保障での対応となりますので保険適応となります。自己負担3割で利用可能となりますが、視点を変えると7割引の商品とみることができず。今日、あなたの提供した作業療法は患者・家族から定価で支払ってくれるクオリティで提供できましたかと問われるとどのように答えますか？単純な消費行動ととらえることは良くないと言われそうですが、提供側の業界からの視点ではなく、クライアント側、消費者側からの視点での明確さを忘れてはいけないと思います。7割引きなどということ自体が間違っている。そんなに単純なものではないと叱られそうですが、それは提供側、行政側からの視点です。視点が変われば見方も解釈も感情も変わるものです。このカンカクを理解するセンスは持っておきたいものです。

自分の作業療法の価値はとりあえず自分の価値観に沿ったものであることでしょう。得意からせめて、ちょっと苦手なことへも挑戦していくことでしょう。食わず嫌いはやめて、バランスよく咀嚼していきましょう。食事のようなものですね。一方でこの商品価値は、価値を見出す人によっても左右されます。価値を見出す人のアンテナに触れる可能性を上げると、良いご縁に恵まれる機会が増えるかもしれません。昔ながらの学会発表や論文投稿は自己表現の1つの方法ですし、昨今ですとインターネットやSNS上での発信も可能となっています。節度ある適切な利用で評価が上がることでしょう。

このように昭和から令和にかけて、大切にしている基本的なことは守りつつ、時代と共に変化すべきところは柔軟に対応し、各世代にあった進化を続けていくことが重要でしょう。多角的なアプローチが求められる作業療法では、人が関わる様々なジャンルにアンテナを張っていた方が、多角的に対応できるようになるでしょう。私が駆け出しのころ先輩に、「PTは触って治してなんぼだが、OTは相手が主体的に動いてくれてなんぼだ」と言われて、何のことかわからなかったのですが、その後様々な先輩や後輩と話をすることで、その先輩が何を言いたかったのか、少しずつわかってきたような経験をしました。自分が学んで、自分の言葉で伝えて、返ってくる相手の言葉を理解して、さらに表現を工夫するという作業は、案外心地いいものです。ではどのように自己の商品価値を上げていきたいと思いますか？ 知識、技術、実践、実績、発信のバランスが大事になるように思います。これらは様々な仕事に共通することでしょう。それを裏付けるように世の中には様々な育成、研鑽、教育などの手法があふれているように見えます。主にはビジネス系の手法で、系統立てられたものが多いようで、ベースは心理学系のものが多いのかもしれませんが。

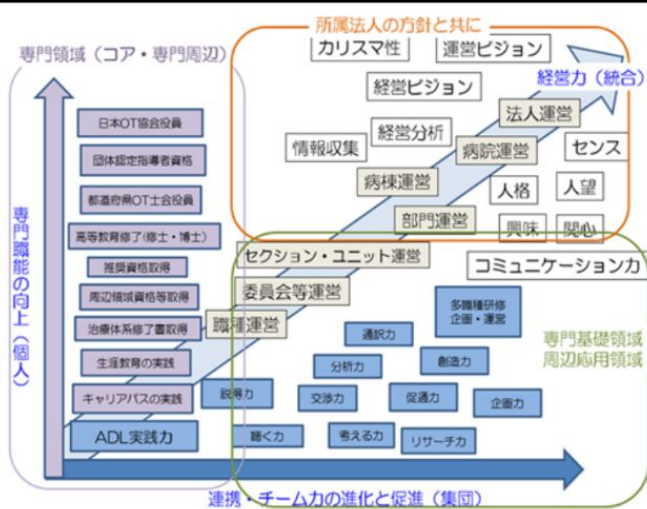
ここでちょっとキャリアという用語を整理してみます。

「キャリア」とは、一般に「経歴」、「経験」、「発展」さらには、「関連した職務の連鎖」等と表現され、時間的持続性ないし継続性を持った概念として捉えられる。「職業能力」との関連で考えると、「職業能力」は「キャリア」を積んだ結果として蓄積されたものであるのに対し、「キャリア」は職業経験を通して、「職業能力」を蓄積していく過程の概念であるとも言える。「キャリア形成」とは、このような「キャリア」の概念を前提として、個人が職業能力を作り上げていくこと、すなわち、「関連した職務経験の連鎖を通して職業能力を形成していくこと」と捉えることが適当と考えられる。

また、こうした「キャリア形成」のプロセスを、個人の側から観ると、動機、価値観、能力を自ら問いながら、職業を通して自己実現を図っていくプロセスとして考えられる。

(厚労省「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会」報告書より)

キャリアを判断するポイントが日本には5つあります。1つ目は、「技術・知識を示す経験」、2つ目は「転職回数や社格など含めた転職履歴」、3つ目は「日本特有の判断基準である年齢」、4つ目は「人となりを表す考え方・人間性」、最後5つ目は「外的要因である景況感とトレンド」。この掛け合わせでキャリアは判断されます。(Manpower Group HPより) これらは一般ビジネスをベースに考えられたことであろうから、そのまま作業療法のことに結びつかない部分もありますが、広く経験値と居場所(キャリアとポスト)をとらえると、我々の多くの者が所属している病院という会社を想定してみると以下のような図を考えました。



左側の縦軸はいわゆる作業療法士としてのコアな成長の部分、いわゆる専門科目的な意味合いのところでは純粋に患者対応という点では核になる部分でしょう。右下の横軸は後輩教育や職場づくりといういわゆる周辺業務と言われている領域かと思えます。この2つの領域は多くの作業療法士が体験しているところだと思います。この2つの領域をベースに右斜め上の経営というところに間のできるか否かというのはその組織の都合によるでしょうから個人レベルではアクセスが難しい領域となります。一方で、この3つの領域は似て非なるものでもあります。対立するところもあるでしょう。どの立ち位置にいるかは見失わないようにしなければなりません。いわゆる大人に事情も理解しようとしなければいけない場面もあります。別な領域であっても、尊厳して学習し、対立だけではなく、相手の領域を学ぶことで、理解が進み課題解決を共に模索することもできるでしょう。食わず嫌いの専門バカでは俯瞰的、大局的視点は育ちにくのかもしれない。

以上のように、サラリーマンとはいえず学ぶ方向は多彩です。下図は学習するプログラムの例です。このようなキーワードで学んでみてはいかがでしょうか。学んでみると意外と自分にあったものが見つかるかもしれません。私の世代が就職したころは作業療法室での業務が主で、理学療法士よりは緩い？技術屋の徒弟制度の中、先輩をまねて、試行錯誤しながら、おおらかな臨床経験を重ねてきたと記憶しています。病院の収益も潤沢で、経費だの管理だの時間外だなどと上からは言われていなかったところが少なくなかったでしょう。その頃から現実を突きつけられる人口動態から先々の危機感もあって、2000年に回復期リハビリテーション病棟と公的介護保険制度が開始されたことが典型的だったかと思えます。近代社会保障元年のように感じました。これを契機に理学療法士や作業療法士、言語聴覚士の養成定員が一気に拡大し、卒業生も順当に増えていき、セラピストの供給という点では充足されてきているようですが、一方でそれまででない課題を生み出しています。入学時から大学だけでも偏差値62~35と幅が大きくなり、基礎学力の差に振り回されるようになった教育現場がありました。臨床実習も見直され臨床参加型実習となり、実習中の課題も大幅に整理されました。これらの結果、病院現場では新人研修を見直す必要となり、課題の先送りと感じる場面も増えてきました。さらに、主に回復期リハビリテーション病棟では同期の採用数が増えてきて、将来の居場所を含めたビジョンをつかみにくくなっているという話を聞きます。このように近代20年の間に、入学から引退までの環境が大きく変わったとみています。今後は古い価値観を理解しつつ、現実の構造にそった、新たな立ち位置を模索しつつ、その裏付けは確実に実行していくことが求められます。作業療法が必要な患者、クライアントはいなくなりません。作業療法もなくなりません。

学習プログラム領域の例

一方で、あなたの作業療法は必要ですか？
あなたはこの法人に必要ですか？ あなたは患者さんから選ばれますか？ 自営業の場合、あなたのところのお客さんは満足していますか？あなたの会社はこの地域に必要ですか？などなど、このようなことを自分自身に問いかけ続けていくことが必要なのでしょう。我々の対象は人と環境です。日々の様々なことに気づけるようにし、興味・関心を持ち、日々の発見を大切に作業療法士の役割を遂行するとともに、1度しかない自分の人生を楽しんで、豊かなものにしていきましょう。人のためだけではつぶれてしまいます。我々自身も誰かのクライアントなので、作業療法はそれを行っている人たちを含めて、すごく魅力的でおもしろいですよ・・・ね。

- 研究領域**
 - 量的研究
 - 質的研究
 - 文献レビュー
 - 事例報告・研究
- 人材育成領域**
 - 心理学
 - 面接技法
 - ティーチング
 - コーチング
 - カウンセリング
 - コミュニケーション
- 対人関係領域**
 - チームワーク
 - 観察 傾聴 交渉 表現 伝達
 - 接遇・接待
 - 人物理解と把握
 - クレーム・トラブル対応
- リーダーシップ領域**
 - 決断力
 - 判断力
 - 統率力
 - 先見性
 - 影響力
 - 部門調整力
 - 創造性
 - 実行・行動力
 - 感情調整力
- 思考力領域**
 - 帰納・俯瞰
 - 演繹・帰納思考
 - 柔軟思考
 - 戦略思考
 - 概念思考
 - 論理・分析思考
 - 仮説・検証思考
- 組織力領域**
 - 理念・ビジョン
 - 方針策定・戦略構築
 - 目標・計画立案
 - 業務整理
 - 課題解決
 - 監査・監督
- 業務遂行領域**
 - 課題・問題解決
 - 業務改善
 - 判断力
 - 計数感覚・管理
 - 情報活用
 - 時間管理
 - 手順・手段・段取り
 - マーケティング
 - 企画・計画
 - 見積・推論・仮説
 - 実践・アレンジ
 - 分析・合理化
 - リスク管理



長崎作業・支援技術研究会

代表：長尾哲男 アドバイザー：淡野義長

話題提供に対して参加者が意見交換しながら作業療法について考える研究会です。



毎月第3木曜日 17:30~19:00
オンライン開催 無料
参加後、アンケート記載でSIG 1ポイント

<発足の目的>

- ①臨床における作業療法の知識・支援技術の向上を図り、日常の作業療法の実践の助けになること
- ②情報及び意見交換による相互の自己研鑽を図る

*2007年に発足後、一時中断しましたが、2020年より長崎北病院に事務局に置き再開。

コロナ禍でオンラインになり、参加者が離島や県外からと多岐に渡り、「学びの場」になっています。ぜひ、ご参加お待ちしております。



事務局：松尾理恵 下條洋子
諸富優輝 武田芳子

問い合わせ：fuku.himawari.1207t@gmail.com



開催月	話題提供してくれる病院・施設	担当OT
4月	長崎リハビリテーション病院	淡野義長
5月	長崎作業・支援技術研究会①	長尾哲男
6月	長崎作業・支援技術研究会②	長尾哲男
7月	長崎労災病院	塚本倫央
8月	西九州大学	植田友貴
9月	大村市地域包括支援センター	村木敏子
10月	通所リハビリテーション「菅整形」	中山浩介
11月	デイケア西部リハビリテーション	稲田涼子
12月	光武内科循環器科病院	下條洋子
1月	長崎北病院	松尾理恵
2月	長崎リハビリテーション病院	神田龍太
3月	井上病院	平山直子

精神科研究 グループ

中皿うどん

かれこれ10年以上続いている県央を中心とした研究グループで、およそ1/月活動しております。現在はWebでの活動が中心になってます。勘違いされやすいのですが、勉強会や研修会ではありません。精神科の研究を主とするクロードのグループです。

では、なぜ研究なのか？

現在の精神科作業療法士は崖っぷちです。昨今の医療改革によって、職域が狭まっています。その原因のひとつとして、精神科作業療法が結果を出せていないから…です。ここでいう結果とは、学会や論文などで効果報告された数字のことです。患者さんが健康になったと数字で示すことで、医療や保健の場に作業療法は必要だ！と言われます。作業療法が必要と認識されることで、働く場所も増えるのではないかと考えます。

きっかけ

そもそも研究を始めたきっかけは、私の場合は、大先輩に誘われて…といった感じです。なにか臨床に疑問がある…とか熱い気持ちがあったわけではありません。なので、研究の必要性を書きましたが、後付けです（笑）しかし、現在は自分の生きがいでもあります。大先輩（福田健一郎）ありがとう(^^) /

どんなことをやっているのか？

そんな研究について取り組んでいる中皿うどんの活動内容ですが…プロトコルを出したり、実践した結果をまとめたり、学会に発表するための予演をしたり、といった感じです。内容にもよりますが、ひとつのプロトコルに約1年かけて取り組みます。現在取り組んでいること（臨床）をヒントに、実践するケースもあります。

活動実績

林田浩司他：統合失調症の出生季節性調査（日本作業療法学会，2020）

三岳直也他：認知症患者に対する日光浴のBPSD及び睡眠改善効果（日本作業療法学会，2021）

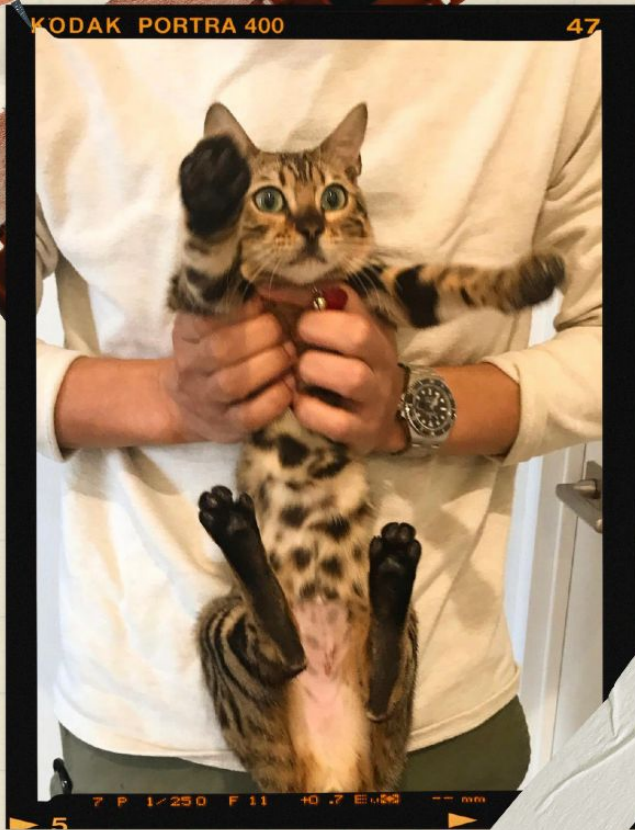
連絡先

iirotok2001@kotorii.or.jp 代表：小鳥居諫早病院 杉村彰悟

これらの実績は、認定作業療法士を目指す方には必須になります。上の資格を目指す方は中皿うどんを利用するのはどうでしょうか？もちろん、興味がある方は気軽にご連絡ください。ノウハウをお教えします…私ではなく、大先輩が（笑）

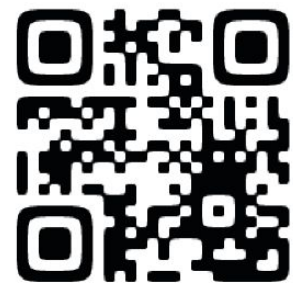


このお父さんOTは誰かな??



同僚OTに聞いたみた！
この方のkey wordは？

・岡山県・脊髄損傷・先見の目



 YouTube

QRコードから、お父さんOTを確認しましょう！！

動画ではこんなことを話されています♪

『OT×家族の時間や失敗談』

『家族と仕事や地域の役員などマルチにこなせる秘訣は？』

『お父さんOTにメッセージ。』などをお話しされます♪

はじめてのプロジェクトなので、ご視聴してもらえたら嬉しいです。

2023年度の広報活動について

広報の活動

- ・情報誌『さいかい』の発刊
- ・オンライン上の研修会の告知
(Fネット・ホームページ・LINE等)

New ・Instagramでの活動報告

New ・中高生に向けたOTの普及活動



▲ 新規メンバー加入後の会議の様子

仕事効率化！おすすめのアプリを紹介します




『Googleフォト』

<できること>

- ・Googleフォトで**画像の中の文字列を簡単にテキスト化**(文字起こし)
- ・その他、テキストを選んだ後に**翻訳や音声で聴く**こともできる

使用方法(使用媒体: iPhone、Android)

1. アプリを開き、テキスト化したい画像をアップロード
2. を押すことでGoogleレンズが開く
3. テキストの範囲を選択する
4. 『コピー』ボタンを押す
- ※Google ChromeブラウザでGoogleアカウントのログインができれば『パソコンにコピー』もできる
5. テキストファイル内に貼り付けできる



『Googleドキュメント』

<できること>

- ・Googleドキュメント内に貼り付けた英語などの**テキストの翻訳**ができる
- ・**音声のテキスト入力**ができる

使用方法(使用媒体: パソコン)

アプリを開き、ツール内の『翻訳』または『音声』を選択し使用できる

編集後記

今回のさいかいはいかがでしたか？

記事内で紹介した新しい広報委員会メンバーと共に頑張っていきます。

今後も私たちの活動を温かく見守り下さい。